

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	基礎製図演習Ⅱ					授業形態	演習		
科目コード	260003	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡島 直方							ICT活 用	
授業概要	図面表現の基礎を学ぶ。道具を使いながら手描きで図面を描く。工学系の学科における「図学」のごく初歩の内容を含む。使う道具は、三角定規、コンパス、直定規、分度器、雲形定規、ペン、鉛筆、色鉛筆、水彩道具、三角スケール、プレートなどで、道具の使い方から始まり、線の描き方、正射投影法と、基礎製図Ⅰから引き続き、正射投影法を通じて平面上に立体の全体像を表現する方法を身に付け、単純な形態をモチーフとして透視図法（パース）を描くところまで取り扱う。								
関連する科目	造園学科分野に進む学生は、「基礎製図実習Ⅰ」と一緒に本科科目を受講すること。「基礎製図実習Ⅰ」と「基礎製図実習Ⅱ」は、連日の科目ですので、両方で一つのまとまりとなる。2年生前期の「庭園学演習」を受講する前に「基礎製図実習Ⅰ」と「基礎製図実習Ⅱ」の内容が理解されているとスムーズに取り組める。その後は「敷地計画論演習」「コンピュータ・CAD演習」が一連の授業体系を構成している。								
授業の進め方 と方法	課題が出されるので時間中に取り組んで提出をしてもらう。課題を仕上げるのにかかる時間に個人差があるので、時間内に終わらない場合は、課外時間を使って仕上げなければならない（復習として）ことがある。演習は1日に90分授業を2コマ連続して行うため、合計180分となる。下の授業計画では2回分が一日分である。								
授業計画 【第1回】	1. 正射投影図の説明と簡単な正射投影図の実施 3次元空間を紙の上に表現する工夫としての正射投影図の描き方の説明をし、実際に簡易な図をかいてもらう。								
授業計画 【第2回】	2. 等角投影法の基礎事例（正射投影とアイソメトリック 基本（T型）） 3次元の立体を2次元に表現する図法で、実際の立体を描いてもらう。（3方向に分解された軸線に留意して）								
授業計画 【第3回】	3. アイソメトリック描き方のテスト（立方体）、5つの立体を正射投影とアイソメトリックで描く、の課題説明 アイソメトリックの原理に従って立方体を描けるか確認し、5つの具体的立体の描き方などを説明する。								
授業計画 【第4回】	4. 4つの立体のうち3つまでを完成させる。（正射投影とアイソメトリック） 4つの具体的立体を箱の面の側からみた図を描いていく。								
授業計画 【第5回】	5. 4つの立体の残り1つを完成させる。（正射投影とアイソメトリック） 少し複雑な形体の立体を、アイソメもしくは正射投影法により描いていく。（難度があがるので必要な場合は補助プリントを配布する）								
授業計画 【第6回】	6. 4つの立体の残り1つを完成させる。（正射投影とアイソメトリック） 少し複雑な形体の立体を、アイソメもしくは正射投影法により描いていく。（難度があがるので必要な場合は補助プリントを配布する）								
授業計画 【第7回】	7. いろいろな樹木、石を描く これまで幾何学的な図形を道具を使ってえがくことが多かったが、ここでは有機的な自然の景物の立面の描き方を体験する。								
授業計画 【第8回】	8. 建物と庭の等角投影図、説明 これまで学んだ図法で、建物と庭の外観を描くにはどうするか解説する。								
授業計画 【第9回】	9. 建物と庭の等角投影図、実践1 これまで学んだ図法で、建物と庭の外観を描くにはどうするか演習してもらう。基本的な外形を描く。								
授業計画 【第10回】	10. 建物と庭の等角投影図、実践2 これまで学んだ図法で、建物と庭の外観を描くにはどうするか演習してもらう。建物と庭の接点について提案してもらう。								

授業計画 【第11回】	11. 簡単な一点透視の実践（本を斜め上から見る） 描き方の理屈は分からないかもしれないが、まずは実践で描いてもらう。
授業計画 【第12回】	12. 簡単な立体を、条件をつけてみた場合の1点透視図の説明 一点透視はどのような理論で組み立てられているのか、根本的なところを解説する。
授業計画 【第13回】	13. 簡単な立体を、条件をつけてみた場合の1点透視図の実践 一点透視はどのような理論で組み立てられているのか、根本的なところをシミュレートする。
授業計画 【第14回】	14. 1点透視図における45度の対角線の意味の説明 一点透視を簡易的に描く45度法について、理論を解説する。
授業計画 【第15回】	15. 1点透視図における45度の対角線を使った実践 一点透視を簡易的に描く45度法について、理論をシミュレートしてもらう。
授業の到達目標	図面を描く上で必要になる基礎的な概念をつかんでもらい演習する。手書きで図面を書く際の基本的な道具の使い方を習得する。各種基本図面の描き方の法則を知る。ほぼ全課題にわたって、準備された手本通りに描くことで基礎を習得する。Ⅱでは、基本的な道具の使い方は理解したうえで、大きく2種類の図法を説明し、実践を行う。 【専門分野のスキル】【高度な専門力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	次回課題の概要を説明するので、自分で調べて内容を理解しておく（30分）
授業時間外学習【復習】	与えられた課題の要点をまとめる（30分）
課題に対する フィードバック	提出課題をチェックして返却します。
評価方法・基準	課題提出物で100点分である。 授業態度で減点されることがある。2時間連続の演習なので、1日休むと2回休んだことになるので注意してください。 課題はすべて提出する必要がある。提出数が少ないと減点となる。 課題の配点が、内容によって異なる場合がある。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	適宜プリントを配布する。 造園図面の表現と技法 1 野沢清・板橋二三男 誠文堂新光社（1977） はじめてのランドスケープ製図 単行本 （2023） 内藤 英四郎（著）、入江 彰昭（著）、栗原 国男（著）、彰国社
備考	「基礎製図演習Ⅰ」の備考に書いてある内容は、本演習でも該当するので読んでおくこと。 8～10回目の建物と庭の図を描く際に、いくつかの条件がある。建物と庭との接点部分処理する方法を考えると樹木を描くことである。 「基礎製図演習Ⅰ」で学んだ道具の使い方が正確にできないと、図がゆがみ、すべての課題で減点となりかねないので注意が必要である。